

経営比較分析表（平成30年度決算）

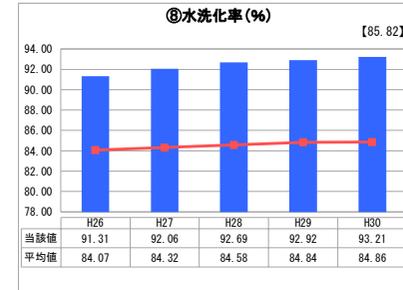
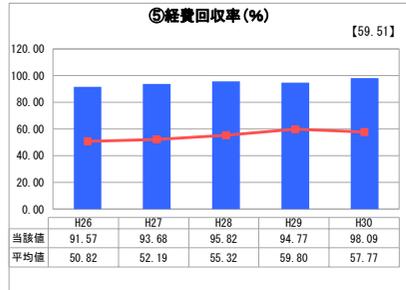
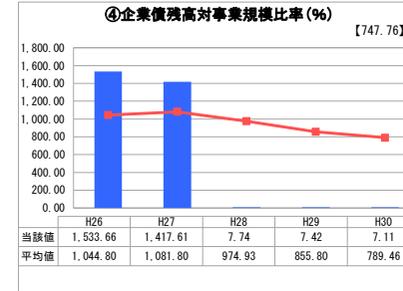
岩手県 北上市

業務名	業種名	事業名	類似団体区分	管理者の情報
法非適用	下水道事業	農業集落排水	F2	非設置
資金不足比率(%)	自己資本構成比率(%)	普及率(%)	有収率(%)	1か月20m ³ 当たり家庭料金(円)
-	該当数値なし	13.27	71.69	3,352

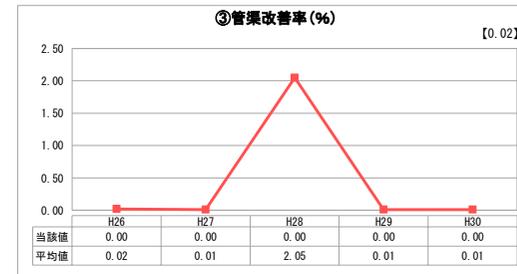
人口(人)	面積(km ²)	人口密度(人/km ²)
92,742	437.55	211.96
処理区域内人口(人)	処理区域面積(km ²)	処理区域内人口密度(人/km ²)
12,242	4.76	2,571.85

グラフ凡例
■ 当該団体値（当該値）
— 類似団体平均値（平均値）
【】 平成30年度全国平均

1. 経営の健全性・効率性



2. 老朽化の状況



分析欄

1. 経営の健全性・効率性について

①地方債償還金は逦減しましたが、総費用が増加し、一般会計からの繰入金の割合が大きく、厳しい経営状況にあると言えます。

④平成28年度より、企業債残高に係る一般会計負担額が増加したため事業規模比率が下がりました。

⑤経費回収率は昨年度より若干増加し、年々上昇しております。しかし、使用料金で回収すべき経費である汚水処理を賄うことが出来ていないことから、一層の汚水処理経費の削減が必要です。

⑥全国平均を下回っていますが、今後も有収率の向上と汚水処理費の軽減に努めていく必要があります。

⑦全国平均を上回る施設利用となっていますが、処理区域内人口が大きく増加しない見込みであることから、同水準で推移すると考えられます。

⑧水洗化率は、わずかではありますが増加傾向にあります。しかし、処理区域内人口が大きく増加しない見込みであることから、同水準で推移すると考えられます。

2. 老朽化の状況について

耐用年数に到達した管渠は無いことから更新等はありません。

全体総括

処理区域内人口が大きく増加する可能性は低いことから、使用料収入は横ばいで推移し、また、ほとんどの施設が供用開始から15年以上経過し、老朽化が進んでいることから、維持管理費は増加していくことが考えられます。このことから、今後、持続率の向上、使用料の見直し、公共下水道への接続等に取り組んでいく必要があります。

※ 法適用企業と類似団体区分が同じため、収益的収支比率の類似団体平均等を表示していません。